

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基礎研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19530357

研究課題名（和文） 日本企業の国内回帰現象と国際競争力に関する研究

研究課題名（英文） A Consideration on “Homecoming Phenomena” of Japanese Manufacturers and Their Competitive Advantages

研究代表者

中村久人（Nakamura Hisato）

東洋大学・経営学部・教授

研究者番号：30132111

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学

キーワード：日本企業の国内回帰現象、産業空洞化、マザー工場、現地生産、
「日中双頭」の製品開発

1. 研究計画の概要

日本企業の国内回帰現象はなぜ生じているのか。また、それはある産業やある業種あるいはある工程において特殊的であるのか。さらに、国内回帰と海外生産は代替的關係にあるのかあるいは相互補完的關係にあるのか。相互補完的關係にあるとすれば国内生産と海外生産の「棲み分け」は業界別・業種別・工程別にいかなる基準で行われているのか等を明らかにする。

また、日本企業の国際競争力との関係で、特に一時中国等に進出したが撤退して国内に回帰した企業の場合と海外生産と国内生産の両方を行っている企業の双方のケースをとり上げ、国内生産を行っているそれぞれの理由を明らかにしたい。前者の場合、特に日本企業が中国企業等に勝つための競争優位の要素・条件や方策は何かを明らかにしたい。後者の場合は、世界最適地生産の観点から、国内工場（マザー工場）と海外工場の立地と役割を明らかにしたい。

以上の研究を通じて国内回帰現象が一時的・ブーム的な現象なのか、それとも今後も継続する製造業の一般的現象なのかを明らかにする。

2. 研究の進捗状況

19年度に予定していた国内回帰現象の資料や研究論文・書籍は思いの外少なく、また海外から撤退し国内回帰した企業のインタビュー調査もガードが固くて大変困難な状況である。海外からの撤退は当該企業にと

っては失敗であり、あまり語りたくない部分であるのかもしれない。

そのようなこともあり、20年度においては、デジタル家電関連業種（半導体、液晶、デジカメなど）、自動車組立てメーカーなどのほか機械や素材産業に属する企業も調査する予定であったが実現していない。

また、08年後半からの日本経済の不況・企業の業績悪化により、研究期間においては日本企業の海外進出や産業空洞化現象の方が、日本企業の海外からの撤退や国内回帰現象より優勢であった（例えば、ホンダ小川町・寄居町工場の工事凍結）。

しかし、平成22年に入り企業の設備投資等にも幾らか光明が見えてきており、例えば、半導体業界においては、東芝がフラッシュメモリー世界一の座を狙って8000億円を投じ、これまで凍結していた工場建設を再開する方針を発表している（2月10日）。

海外生産から撤退した企業および海外生産を継続したままで新たに国内工場を設営した企業の双方に対してアンケート表を作成し、郵送調査を実施することを予定していたが実行できていない。

アンケート調査結果の分析を産業別、業種別、工程別に分けて行う作業もできていないので、今後の課題である。

3. 現在までの達成度

これまでの研究で親会社のマザー工場と海外工場の役割分担、先端技術の「ブラックボックス化」、生産と開発の一体化、生産ライン自動化などの革新により人件費の高い

国内でも十分にやっけていける生産のあり方、国内生産と海外生産の「棲み分け」基準など問題の核心が次第に明らかになってきた。

さらに、そこから得られる知見により日本企業が新興経済諸国（BRICS など）企業との国際競争で勝機を見出すための戦略も明らかになりつつある。

現在までの達成度は完全とまではいかないが研究の核心の部分においてはある程度目的を達成できていると感じている。

これらの成果の一部は、次頁に示す雑誌論文や著書として公表済みである。

4. 今後の研究の推進方策

次年度は本研究の最終年度でもあるので、国内景気の回復に伴って予想される国内回帰現象とそれに伴う工場立地の増加に焦点を合わせ、該当する国内企業へのインタビュー調査を強化したい。

また、当初の研究目的に照らして、研究の進捗状況を振り返って、十分でなかった点を補強し、最終的な報告書を作成する予定である。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

- ①中村久人「ベトナムにおける直接投資の環境と動向—日系企業の現地生産と人的資源管理を中心として—」経営論集、74号、pp.33~46、2009年、査読無
- ②中村久人「ボーン・グローバル・カンパニー（BGC）の研究—その概念と新しい国際化プロセスの検討—」経営論集72号、pp.1~16、2008年、査読無
- ③中村久人「日本製造企業の国内回帰現象と国際競争力に関する研究」経営論集71号、pp.157-171、2008年、査読無
- ④中村久人「日本製造企業の国内回帰現象と企業競争力に関する研究」経営論集69号、pp61~74、2007年、査読無

〔学会発表〕（計1件）

- ①中村久人 テーマ：「日本製造業の国内回帰現象と企業競争力に関する考察」、国際ビジネス研究学会 第15回全国大会（於岡山大学）2008年10月26日

〔図書〕（計1件）

- ①中村久人著『グローバル経営の理論と実態』（新訂版）同文館出版、2010年、313頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

特になし